

山崎 小林さん、住宅の問題を中心に話を伺えますか。

小林 住宅でいえば阪神・淡路のときにも昭和56年以前の古い建物が倒壊したので耐震化を進めていただきたことと、国土交通省で税を考慮した耐震

竹下 私は世田谷に住んでいますが、足元に火がついている地域ですね。(笑)そういう情報は、おそらく消防署を通じて受け取っているはずなんですけれども、もう一つ切実感がない。あとコミュニケーションの問題。うちの周りも、住みかえ、建てかえで、長年暮らしていた人の中に新しい人も入ってくる。どうやって新しくコミュニケーションをつくっていかばいいか。一つ一つ課題を拾い出し、防災の意識を保って前に進んでいくのは、なかなか根気の要ることだと思えます。

山崎 阪神・淡路と違うのは、世界の経済中枢としての東京の機能の麻痺あるいはシステムの崩壊をどう早く回復するかです。世界の経済生産の1割を日本が占め、東京はその7割です。コントロールセンターとしての東京の崩壊は、例えばニューヨークの証券市場と東京の証券市場がリンクしないという、致命的なことがおこるわけですが、またトヨタとかナショナルとかソニーとか、世界的な企業のデータが壊れてしまふ。つまり、首都の持つ経済機能をどう早く回復させるか、そして一方で住宅の大火災をどう防ぐかという2つの命題をどう解くかが私たち専門家の使命と思っています。

山崎 私たちに身近なのは、住宅の火災です。住宅の密集地などは大丈夫だろうが、対策が少しずつ動き始めています。

「VTR放映」

山崎 竹下さん、今の再開発の取り組み、どうご覧になりましたか。

竹下 防災拠点の近くに私も住みたいなと思いました。一時避難というスペース、自炊ができ、トイレが使えるのは、とても安心ですが、果たしてそこに住んでいる人たちがその存在を把握しているか気になりました。ただの公園としか意識していません。ただの公園というとき機能しません。また道路の拡張は近所でもよく見かける光景ですが、これは時間がかかりますね。



ビルが傾いた 神戸市内三宮地区

山崎 伊藤さん、東京の直下型地震の被害についてどう見ておられますか。

伊藤 阪神・淡路と違うのは、世界の経済中枢としての東京の機能の麻痺あるいはシステムの崩壊をどう早く回復するかです。世界の経済生産の1割を日本が占め、東京はその7割です。コントロールセンターとしての東京の崩壊は、例えばニューヨークの証券市場と東京の証券市場がリンクしないという、致命的なことがおこるわけですが、またトヨタとかナショナルとかソニーとか、世界的な企業のデータが壊れてしまふ。つまり、首都の持つ経済機能をどう早く回復させるか、そして一方で住宅の大火災をどう防ぐかという2つの命題をどう解くかが私たち専門家の使命と思っています。

山崎 伊藤さん、東京の直下型地震の被害についてどう見ておられますか。

伊藤 阪神・淡路と違うのは、世界の経済中枢としての東京の機能の麻痺あるいはシステムの崩壊をどう早く回復するかです。世界の経済生産の1割を日本が占め、東京はその7割です。コントロールセンターとしての東京の崩壊は、例えばニューヨークの証券市場と東京の証券市場がリンクしないという、致命的なことがおこるわけですが、またトヨタとかナショナルとかソニーとか、世界的な企業のデータが壊れてしまふ。つまり、首都の持つ経済機能をどう早く回復させるか、そして一方で住宅の大火災をどう防ぐかという2つの命題をどう解くかが私たち専門家の使命と思っています。

山崎 私たちに身近なのは、住宅の火災です。住宅の密集地などは大丈夫だろうが、対策が少しずつ動き始めています。

「VTR放映」

山崎 竹下さん、今の再開発の取り組み、どうご覧になりましたか。

竹下 防災拠点の近くに私も住みたいなと思いました。一時避難というスペース、自炊ができ、トイレが使えるのは、とても安心ですが、果たしてそこに住んでいる人たちがその存在を把握しているか気になりました。ただの公園としか意識していません。また道路の拡張は近所でもよく見かける光景ですが、これは時間がかかりますね。

山崎 伊藤さん、住宅の復興、再建も大変ご苦労なさいましたね。

伊藤 被災後急がれるのはライフラインの復旧ですね。電気・ガスとか情報と交通のシステム。それから、都市間競争も激しい時代ですから、産業の復興です。しかし最も急がれるのは住宅の復興です。家を失った人は、まず避難所へ行き、仮設住宅へ行き、それから本格住宅復興という段階になるわけです。住宅産業は住民のニーズにそって動いているわけですが、被災直後はそれがすごく変化します。従来ですと、持ち家志向が6割、賃貸住宅志向が4割だったのが、震災では家を持っていても大変だということで、逆に6割が賃貸住宅を希望する。しかも、公的住宅と民間住宅も逆転をし、住宅対策は非常にやりにくい状態になります。

山崎 伊藤さん、住宅の復興、再建も大変ご苦労なさいましたね。

伊藤 被災後急がれるのはライフラインの復旧ですね。電気・ガスとか情報と交通のシステム。それから、都市間競争も激しい時代ですから、産業の復興です。しかし最も急がれるのは住宅の復興です。家を失った人は、まず避難所へ行き、仮設住宅へ行き、それから本格住宅復興という段階になるわけです。住宅産業は住民のニーズにそって動いているわけですが、被災直後はそれがすごく変化します。従来ですと、持ち家志向が6割、賃貸住宅志向が4割だったのが、震災では家を持っていても大変だということで、逆に6割が賃貸住宅を希望する。しかも、公的住宅と民間住宅も逆転をし、住宅対策は非常にやりにくい状態になります。

山崎 伊藤さん、住宅の復興、再建も大変ご苦労なさいましたね。

伊藤 被災後急がれるのはライフラインの復旧ですね。電気・ガスとか情報と交通のシステム。それから、都市間競争も激しい時代ですから、産業の復興です。しかし最も急がれるのは住宅の復興です。家を失った人は、まず避難所へ行き、仮設住宅へ行き、それから本格住宅復興という段階になるわけです。住宅産業は住民のニーズにそって動いているわけですが、被災直後はそれがすごく変化します。従来ですと、持ち家志向が6割、賃貸住宅志向が4割だったのが、震災では家を持っていても大変だということで、逆に6割が賃貸住宅を希望する。しかも、公的住宅と民間住宅も逆転をし、住宅対策は非常にやりにくい状態になります。

山崎 伊藤さん、住宅の復興、再建も大変ご苦労なさいましたね。

伊藤 被災後急がれるのはライフラインの復旧ですね。電気・ガスとか情報と交通のシステム。それから、都市間競争も激しい時代ですから、産業の復興です。しかし最も急がれるのは住宅の復興です。家を失った人は、まず避難所へ行き、仮設住宅へ行き、それから本格住宅復興という段階になるわけです。住宅産業は住民のニーズにそって動いているわけですが、被災直後はそれがすごく変化します。従来ですと、持ち家志向が6割、賃貸住宅志向が4割だったのが、震災では家を持っていても大変だということで、逆に6割が賃貸住宅を希望する。しかも、公的住宅と民間住宅も逆転をし、住宅対策は非常にやりにくい状態になります。



焼失した 神戸市内長田地区

山崎 和泉さん、今のお話、阪神・淡路の際、国は住宅の復興をどうサポートしたのですか。

和泉 第1点、阪神・淡路の経験は、いろいろの問題を住宅復興あるいは仮設住宅に投げかけました。避難所の数が多かったものですから、すごいスピードで仮設住宅をつくったんですね。それをどう入れるか十分な配慮が難しかったです。結果として、従来のコミュニティと関係がなく、ばらばらに仮設住宅に入った。これは大きな問題でした。今回の新潟県中越地震では、兵庫県からも新潟県に当時の経験を持ったアドバイザーが入って、コミュニティ単位で地域単位で仮設住宅に入ることが実現しています。加えて当時仮設住宅に入った高齢者の方々のケアが問題になった、今回は、仮設住宅の団地にデイセンターもつくります。

山崎 伊藤さん、過去に災害の教訓を、住宅にどう生かせばいいのでしょうか。

伊藤 東京直下は、阪神・淡路の被災より一桁大きい災害になり、建物倒壊も40万戸になりますと、一つのやり方に対応することはできません。やり方を多様に供給して、被災者が自らの責任で選択して決める、支援金を受け取る人もいるし、仮設住宅へ入る人もいる、行政として今まで考えられない多

山崎 伊藤さん、阪神・淡路の教訓はどうでしょうか。

伊藤 神戸は1945年の空襲で市街地の61%が罹災し、土地区画整理事業が進められました。大学の調査により、戦災を受けた所は今回の被害が少なかった、つまり市街地改造などの手法で整備された所は犠牲が少なかったことがデータで示されています。しかし、戦災後60年たっていますから、まちの災害、防災力を高めるには面的な整備がなお大切です。ただ、それは時間がかかりますから、個々の家を強くする、それも難しい場合は一つの部屋ごとに耐震力を強める対策が重要で、これは経験の中から我々が学んだことです。

山崎 伊藤さん、阪神・淡路の教訓はどうでしょうか。

伊藤 神戸は1945年の空襲で市街地の61%が罹災し、土地区画整理事業が進められました。大学の調査により、戦災を受けた所は今回の被害が少なかった、つまり市街地改造などの手法で整備された所は犠牲が少なかったことがデータで示されています。しかし、戦災後60年たっていますから、まちの災害、防災力を高めるには面的な整備がなお大切です。ただ、それは時間がかかりますから、個々の家を強くする、それも難しい場合は一つの部屋ごとに耐震力を強める対策が重要で、これは経験の中から我々が学んだことです。



神戸市内 崩壊した阪神高速道路

山崎 伊藤さん、過去に災害の教訓を、住宅にどう生かせばいいのでしょうか。

伊藤 東京直下は、阪神・淡路の被災より一桁大きい災害になり、建物倒壊も40万戸になりますと、一つのやり方に対応することはできません。やり方を多様に供給して、被災者が自らの責任で選択して決める、支援金を受け取る人もいるし、仮設住宅へ入る人もいる、行政として今まで考えられない多

山崎 伊藤さん、過去に災害の教訓を、住宅にどう生かせばいいのでしょうか。

伊藤 東京直下は、阪神・淡路の被災より一桁大きい災害になり、建物倒壊も40万戸になりますと、一つのやり方に対応することはできません。やり方を多様に供給して、被災者が自らの責任で選択して決める、支援金を受け取る人もいるし、仮設住宅へ入る人もいる、行政として今まで考えられない多

山崎 伊藤さん、過去に災害の教訓を、住宅にどう生かせばいいのでしょうか。

伊藤 東京直下は、阪神・淡路の被災より一桁大きい災害になり、建物倒壊も40万戸になりますと、一つのやり方に対応することはできません。やり方を多様に供給して、被災者が自らの責任で選択して決める、支援金を受け取る人もいるし、仮設住宅へ入る人もいる、行政として今まで考えられない多

山崎 伊藤さん、過去に災害の教訓を、住宅にどう生かせばいいのでしょうか。

伊藤 東京直下は、阪神・淡路の被災より一桁大きい災害になり、建物倒壊も40万戸になりますと、一つのやり方に対応することはできません。やり方を多様に供給して、被災者が自らの責任で選択して決める、支援金を受け取る人もいるし、仮設住宅へ入る人もいる、行政として今まで考えられない多

山崎 伊藤さん、過去に災害の教訓を、住宅にどう生かせばいいのでしょうか。

伊藤 東京直下は、阪神・淡路の被災より一桁大きい災害になり、建物倒壊も40万戸になりますと、一つのやり方に対応することはできません。やり方を多様に供給して、被災者が自らの責任で選択して決める、支援金を受け取る人もいるし、仮設住宅へ入る人もいる、行政として今まで考えられない多

山崎 伊藤さん、過去に災害の教訓を、住宅にどう生かせばいいのでしょうか。

伊藤 東京直下は、阪神・淡路の被災より一桁大きい災害になり、建物倒壊も40万戸になりますと、一つのやり方に対応することはできません。やり方を多様に供給して、被災者が自らの責任で選択して決める、支援金を受け取る人もいるし、仮設住宅へ入る人もいる、行政として今まで考えられない多